

本校の実態と改善に向けた取組

朝来市立大蔵小学校

I 国語

1 結果分析

正答者数が少ない設問は、A（話すこと・聞くこと）、B（書くこと）、C（読むこと）に該当するものが1問ずつある。その中でも本校の国語科では、Cに関わる学習に課題があると考えられる。長文を読み取る問題では、その文章が何に注目しているのか、何の説明をしているのかという問いに対して、適切な情報を抜き出すことを苦手としている。また、条件を満たすように自分の考えを書いたり、文章を文字数の中で要約したりするなどの書くことも苦手としている。

文章作成問題については、複数ある条件のうち1つは書けているが、その他の条件を書き漏らしてしまう、という間違いが最も多かった。また、読む問題の中でも、数ページに渡って読み返しながらか解かなければならない問題は、他の問題よりも間違いが多くなる傾向があった。

2 国語科課題解決に向けて

- ・読むことの中でも、語彙を増やしたり、初歩的な文章の読み方を学んだりという、基礎の力をつける学習を行う。
- ・辞書引きの際、本文の使い方に合う意味を選ぶ、調べた言葉を使って文を作るなど、調べた言葉が定着するように活動を工夫していく。
- ・どの教科でも必要があれば言葉の意味の確認を行う。
- ・どの教科でも資料を読み取る際に、どこに注目するのかを考えながら問題を解く機会を設定する。
- ・複数の要素を過不足なく処理する活動を設定する。国語では、文字数やキーワードなど、いくつかの条件を満たした文章を書く活動や、ある場面を解釈するとき、いくつかの描写を繋げて考える活動などを取り入れる。
- ・漢字は、正答率が高い傾向にある。今後も読み書きともに力を入れていく。
- ・書くことに関する問題については、文字数を指定して考えやあらすじを短くまとめる練習を取り入れるなど、条件をつけて書くことを取り入れる。

Ⅱ 算数

1 結果分析

正答者数が少ない設問は、領域 A (数と計算)、C (測定、変化と関係)、D (データの活用) に該当するものが 2 問ずつ、領域 B (図形) に該当するものが 1 問ある。その中でも本校の算数科では、領域 C の「測定」に関わる学習に課題があると考えられる。また、与えられた条件を満たすように自分の考えを書いたり、理由を説明したりするなど、国語科と同様に書くことを苦手としている。

2 算数科課題解決に向けて

- ・文章を読み取る際に、整理しながら考える力をつけさせるために読み取ったことをメモさせたり、文章に表したりする練習を授業に取り入れる。
- ・文章の読解力を高めるために読書習慣の定着と文章量のある本や様々なジャンルの本を読むようにすすめる。
- ・ペアで問題の解き方を説明し合ったり、問題文の条件に合わせて説明し合ったりする活動をする。
- ・基礎計算は、正答率が高い傾向にある。今後も朝学習等で基礎計算に力を入れていく。

Ⅲ 質問

1 結果分析

健康に過ごすために、教えられたことを普段の生活に役立てている児童が多い。
(朝食、就寝、起床など)

携帯電話・スマートフォン・コンピュータをほとんどが約束を守って使用している。その一方で、単純な合算はできないものの、ICT機器を勉強に3時間以上、テレビゲームを普段(月曜日から金曜日)3時間以上、動画視聴を普段3時間以上行っているなど長時間使用している様子が見られた。

学習時間に関しては、平日は1～2時間を確保している児童がほとんどであるが、休日については全くしていない子が4分の1を占めている。

「自分にはよいところがある」、「先生はよいところを認めてくれる」、「将来の夢や目標がある」と回答する割合が高い。また、「困りごとや不安を先生や学校にいる大人に相談できる」と回答する割合が高い。

「わからないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫している」と回答する児童の割合が高いが、自分と違う意見について考えること

を楽しいととらえていない児童が一定数いる。

I C T機器での学習状況については、「自分のペースで理解しながら学習を進める」「分からないことがあった時にすぐ調べる」「楽しみながら学習を進める」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」など比較的良好な結果が得られた。I C T機器を用いる機会について学級で多くの時間を設定し、活用させてきた結果であろうと考えられる。しかし、I C T機器を活用することで「自分の考えや意見を分かりやすく伝える」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などについては否定的な回答が多かった。

2 今後に向けて

基本的な生活習慣は定着しているため、このまま継続できるように家庭と連携を図る必要がある。そのため、質問調査と同じ内容のアンケート調査を4年生以上で定期的に行い、基本的な生活習慣の定着状況を確認していく取組などを通して児童の状況を常に把握していく。その中で、家庭での長時間の動画視聴やサイバー犯罪防止などの注意喚起を、外部講師の啓発授業や保護者との連携などで行っていく。

また、これまでのように日常でのこまめな声かけにより自己肯定感を高め、困ったときに相談できる関係性を構築していく必要がある。そのため、児童支援教員による人権についての授業を行い、悩みごとを相談することが大切だと全校集会や学級で児童に啓発する取組を継続的に行っていく。

I C T機器については個人としては毎日のように活用しているが、今後は、発表に活用する、ホワイトボード代わりに協働学習に用いるなどの取組をさらに進める。

また、全校集会だけではなく、授業の中での共有や発表の場面で活用していくことにこれまで以上に取り組んでいく。